

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ

配付資料

- 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項 1

- 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項のうち、
今回特に御議論いただきたい点について（案） 2

- 幼児教育と小学校教育の接続について（イメージ案） 4

- 資質・能力の三つの柱に沿った生活科において育成すべき資質・能力の整理（素案） 6

- 生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係（案） 7

- 資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて総合的な学習の時間
において生活科において育成すべき資質・能力の整理（素案） 9

- 探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係（案） 10

- カリキュラム・マネジメントのイメージ 13

- 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ（第5回、平成28年3月8日）
における主な意見（未定稿） 14

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1. 「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について
 - ・ 中学年以降の各教科等とのつながりについて
 - ・ 低学年における他教科等との関連について
2. 幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて
 - ・ カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について
 - ・ 幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について
 - ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1. 「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について
 - ・ 各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について
2. 教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について
 - ・ 各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義
 - ・ 各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義
 - ・ 高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項のうち、 今回特に御議論いただきたい点について（案）

【生活科について】

（幼児教育と小学校教育の接続について）

- 論点整理においては、生活科について「幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科として位置付けられるものであり、引き続きこの観点から充実を図る」ことが提言されている。
- また、総則・評価特別部会では、各教科の本質に根ざした「見方や考え方」が示され、幼児期では、生活全体を通じて総合的な指導を行う中で、ものの見方や考え方等が培われることとされている。
- 幼児教育と小学校教育の接続を考えるに当たっては、生活科を中核としたスタートカリキュラムを通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなげていく必要がある。
- その場合、単に内容における接続ではなく、資質・能力でのつながり、さらにはものの見方や考え方のつながりも考えていく必要があるが、これらについてどのように捉え、構造化を図ることが考えられるか。

（生活科における学びのプロセス及び構造化について）

- これまで生活科においては、学習指導要領解説において生活科の基本構造として、内容構成の基本的な視点や学習対象、三つの自立などを示してきた。
- これらと、現在行っている生活科で育成すべき資質・能力の三つの柱での整理との関係性をどのように捉え構造化することが考えられるか。

【総合的な学習の時間について】

（総合的な学習の時間における育成すべき資質・能力について）

- 前回のWGにおいては、総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力について、三つの柱に基づく整理を行った。前回の議論等も踏まえ、資料5のとおり整理できると考えるが、更にどのようなことが考えられるか。

（総合的な学習の時間における「見方や考え方」について）

- 総則・評価特別部会においては、育成すべき資質・能力の育成に当たっては、各教科の本質に根ざした「見方や考え方」が重要であるとされている。見方や考え方は、様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、各教科等ならではの思考の枠組であると考えられる。
- このような考えのもと、総合的な学習の時間の本質に根ざした「見方や考え方」はどのようなものであると考えることができるか。

（学習指導要領における総合的な学習の時間の構造について）

- 総合的な学習の時間は、現行の学習指導要領において、国が定める目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標や内容を定めること、また、育てようとする資質や能力及び態度などを示すこととしているが、本WGにおけるこれまでの総合的な学習の時間において育むべき資質・能力や総合的な学習の時間の意義や役割に関わる議論等を踏まえれば、この構造についてどのように改善することが考えられるか。

小学校教育

接続期

幼児教育

教科等の特質に応じた「見方や考え方」や資質・能力を
育むとともに、
教科横断的にそれらを総合・統合していく学び

生活科を中心としたスタート・カリキュラムの中で、
合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った
姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、
幼児期に総合的に育まれた「見方や考え方」や資質・能力を、
徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、
幼児の得意なところや苦手なところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、
より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成
に基づいた総合的な指導の中でバランスよく「見方や考え方」や資質・能力を育む時期

遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた
「見方や考え方」や資質・能力を育む学び

スタートカリキュラムのイメージ(案)

「見方や考え方」や資質・能力をさらに成長させる
 中学年以降の学びへ

国語 言葉で表現したり、理解したりすることを通して、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりすること、また、表現したり理解したりするときの言葉の働きや仕組みを捉えること。	算数 事象を数理的に捉え、論理的に考え、統合的、発展的に考察すること	生活 身近な自然事象や社会的事象を、規則性や関係性といった視点で捉え、それらと比較、分類、関連付け、工夫、試行、予測することなどを通して、自分自身との関係にも気付きながら考察すること。	音楽 音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と、イメージや感情、生活や社会、文化等との関わりについて音楽活動を通して考えること。	図工 感性や想像力等を働かせながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、自分や他者との関わりや、生活、社会等との関係の中で、見たり創造的に考えたりすること。	体育 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ楽しさや喜びを見出し、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まえながら「する・みる・支える」等の豊かな関わり方について考察すること	道徳 様々な事象を道徳的諸価値との関わりで多面的・多角的に捉え、よりよい自己の生き方や在り方について考察すること	特活 集団や社会の形成者という視点から様々な諸問題を捉え、各教科等で培った見方や考え方を効果的に活用して、よりよい学級・学校生活や社会及び自己の実現に向けて考察し、実践すること。
--	--	--	--	---	---	--	---

※各教科等における「見方や考え方」は各WGにおいて検討中。

「スタート・カリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

健康な心と体
自立心
協同性
道徳性の芽生え
規範意識の芽生え
いろいろな人との関わり
自然とのかかわり
生命尊重、公共心等
数量・図形、文字等への関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現
思考力の芽生え

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、幼児教育において小学校教育を前倒して行うことを意図したものではない。なお、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目については、現在、幼児教育部会において検討中。

資質・能力の三つの柱に沿った

生活科において育成すべき資質・能力の整理（素案）

平成28年3月24日
 教育課程部会
 生活・総合的な学習の時間
 ワーキンググループ
 資料4

	視点	学習対象	個別の知識や技能の基礎 (生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)	思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)	学びに向かう力、人間性等 (どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか)
生活 小学校	【自分と人や社会とのかわり】 健康で安全な生活、身近な人々との接し方、地域への愛着、公共の意識とマナー、生産と消費、情報と交流（ア～カ）	①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族 ⑥家庭	■具体的な活動や体験を通して獲得する、社会事象に関する個別的な気付き ■具体的な活動や体験を通して形成する、社会事象に関する関係的な気付き	■身体を通して関わり、対象に直接働きかける力 ■比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力	■身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度
	【自分と自然とのかわり】 身近な自然との触れ合い、時間と季節、遊びの工夫（キ～ケ）	⑦地域で生活したり働いたりしている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事	■具体的な活動や体験を通して獲得する、自然事象に関する個別的な気付き ■具体的な活動や体験を通して形成する、自然事象に関する関係的な気付き	■違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う ■試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力	■身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度
	【自分自身】 成長への喜び、基本的な生活習慣や生活技能（コ、サ）	⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと	■具体的な活動や体験を通して獲得する、自分自身に関する個別的な気付き ■具体的な活動や体験を通して形成する、自分自身に関する関係的な気付き ■具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能	■伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとする態度

学 生
習 活
上 上
の の
自 自
立 立

精 神 的 な
自 立

生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

平成28年3月24日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料3

思いや願いを持つ

活動や体験をする

感じる・考える

表現する・行為する

* 実際の学習活動は一体的に行われ、体験と表現が繰り返される

思考力・判断力・表現力等

- 対象に関心を持つ
- 身体全体で対象と関わる
- 自ら対象に働きかける

- 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える
- 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う
- 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す

- 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する
- 生活に生かしたり、生活を豊かにしたりする

学びに向かう力・人間性等

探究心 他者尊重 地域への愛着 適切な関わり 公共 安全 (主に人や社会との関わり)

好奇心 自然との触れ合い 感性 生命尊重 創造 (主に自然との関わり)

意欲 自信 成長 自分らしさ 感謝 (主に自分自身)

個別の知識・技能

人、社会、自然に対する個別的な気付き
(例: 学校生活を支えている人々がいること、季節によって生活の様子が変わること など)

人、社会・自然に対する関係的な気付き
(例: 空間の中でつながり関わっていること、きまりや一定の変化があること など)

自分自身への気付き
(例: 自分自身が成長したこと、役割が増えたこと など)

具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能(例: 生活のリズム・病気の予防・ルール・マナー、道具を使って物を作る・動植物の世話ができる など)

生活科の学びのプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

思いや願いを持つ

活動や体験をする

感じる・考える

表現する・行為する

* 実際の学習活動は一体的に行われ、体験と表現が繰り返される



うわー。きれいな花。育ててみたいな。



葉っぱがだんだん大きくなってきたぞ。蔓も伸びてきた。毛も生えているぞ。



アサガオは、どんな気持ちかな。私のお世話のことをどう思っているのかな。



水をしっかりあげて、日の当たるところに置いておくと、大きく育ちます。毎日のお世話が大切です。私は、忘れずに毎日のお世話をすることができました。アサガオと一緒に私も大きくなりました。

かっこいいロケットだなあ。飛ばしてみたいな。作りたいな。



この輪ゴムはどうなっているのかな。高く飛ばすにはどうすればいいのかな。



なるほど、わかったぞ。輪ゴムの巻き方や伸ばし方でロケットの飛ぶ高さが違うみたいだぞ。別の方法でも比べてみよう。



輪ゴムをたくさん巻くとロケットは遠くに飛びました。輪ゴムを長く伸ばしたときも遠くに飛びました。きまりがあるみたいです。がんばって作ったら、すごいロケットになりました。楽しかったので、また、やってみたいです。



町探検、楽しそうだな。早く行きたいな。



町探検に行ってきました。町の人に親切にもらって、とっても楽しかったよ。また、出かけたいな。



私たちの町にはいろいろなお店があるんだな。似たお店もあることが分かったよ。働いている人もたくさんいて、みんな優しくしてくれました。

みんなの地図を一つにまとめて大きな町の地図にしたら、たくさんの発見がありました。町が広いこと、たくさんの道がつながっていることにびっくりしました。大人の人たちが、僕たちを守ってくれていることもわかりました。とっても嬉しい気持ちになりました。



資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて 総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理（素案）

平成28年3月24日
教育課程部会
生活・総合的な学習の時間
ワーキンググループ
資料5

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学ぶことの意義や価値の理解 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的な探究活動の経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的な探究活動の経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。 <p style="text-align: right;">など</p>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。 <p style="text-align: right;">など</p>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。 <p style="text-align: right;">など</p>

教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点での学習活動を支える

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ
(第5回、平成28年3月8日)における主な意見(未定稿)

1. 生活科において育成すべき資質・能力について

- 生活科も総合的な学習も、最後に振り返りを行うことで学びが深まる。振り返りをプロセスの一つとして明示する必要がある。
- 入学したての頃は、伝えていることが振り返っていることが一緒にになっている。つまり、表現することと行為することが、一緒になされていて、その中から、教師が見取っていくという、教師側の評価や指導力が求められる。ただ、プロセスとして振り返りを明示すると、何が何でも振り返りを行わなくてはならないという誤解が生じる可能性があるので、子供たちの発達の段階を考慮して検討する必要がある。
- 幼児教育から総合的な学習へつなげていく位置にある生活科でも、協同性ということを明記してもよいのではないか。
- 学びのプロセスの位置付けは、あくまでも子供たちの学びがうまくいっているときに現れる姿であって、教授手続段階でも活動形態でもないことは、確認していく必要がある。
- 学びのプロセスは、必ずしも1時間の中で起こるとは限らないので、1時間の最後に振り返り活動を必ず入れるということではないことも確認する必要がある。
- 幼児教育で大切にされてきた、個人の振り返りと、最後の方に他者の考えと交流して他者の意見から正しい考えを生み出すようなことが、生活科の中でも引き継がれていることを明示できるとよい。
- 幼児教育においては、自分の力を発揮した上で、他者と協力したり、工夫したり、困難を乗り越えたりする二つの側面を協同性と捉えており、それが生活科の学びにもつながっているのではないか。
- 発達の段階に応じて、どのような振り返りが、子供たちの学びを強めるのかという視点から、具体的な子供の姿で共有できると、より分かりやすいのではないか。

2. 総合的な学習の時間における探究のプロセスと資質・能力について

- 振り返りということを、子供も教師も意識することが重要であり、特に総合的な学習については、振り返りをプロセスに入れるべきだ。
- 「学ぶことの意義や価値の理解」は小学校・中学校でも入れるべきだ。

- 各教科で学んだことが総合的な学習で生かされることで、各教科を学ぶ意義も、総合的な学習の時間の中で理解される。
- 自分の学習の振り返りをして、自分の成長どういことを学んだのか、次に生かせるのかを、じっくり考えることで、教員自身も、子供たちがどのようなことを学んでいるのか、思いもよらなかったところで子供が新たな気づきや発見をしていることに気付くこともある。
- 自分たちに何かできるという実感を持たせることも重要。
- 振り返りは評価にも関わってくる。
- 高等学校については、総合的な学習の時間と数理探究などとの関係を整理することが必要。
- 協同とは、一緒に活動することではなく、もともと持っていた個人のアイデアについて、ほかの人のアイデアをもらうことで新たなものが生まれることであり、そのことを示すべきだ。
- 総合的な学習における個別の知識・技能について、子供たちは、将来、実際に災害などの何らかの出来事に出会ったときに実際に生かすことのできるような深い知識を総合的な学習で獲得しているので、それを示すことができればよい。
- 何となく活動したら結果的に何かが身についたということではなく、何を身に付けるか明確にした上で取り組むことが必要であり、その点について解説などで示すことも考えられるのではないか。
- 総合的な学習については、学校段階ごとの書き分けを言葉で示すのは難しいかもしれない。

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

平成28年3月8日
 教育課程部会
 生活・総合的な学習の時間
 ワーキンググループ
 資料5

■小学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ■手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ■問題状況における事実や関係を把握し理解する ■多様な情報の中にある特徴を見付ける ■課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
探究活動と自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化） 			
探究活動と他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向けて取り組もうとする（他者理解） ○探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へとつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献） 			

知識

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

技能

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

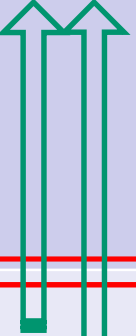
表現のスキル

(比較・分類・関連付け)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

■ 中学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法 	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> ■目的に応じて手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し、多角的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ ■視点を定めて多様な情報を分析する ■課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■相手や目的、意図に応じて論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって計画的に取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えることができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化） 			
探究活動と他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを理解しようとする（他者理解） ○探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとつながり、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献） 			

知識

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

技能

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係(案)

■高等学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する ■仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> ■目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、实际的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報から帰納的、演えきの考察する ■事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に真摯に向き合い、より適切な課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分の特徴を生かし当事者意識と責任感をもって探究活動に向き合い、計画的に着実に取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験の蓄積を課題解決への信念や自信、自己肯定へとつなげ、更に高次の課題に取り組もうとする（内面化） 			
探究活動と他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ○互いを認め特徴を生かし合うなど、課題の解決に向けた探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとする（他者理解） ○探究的な課題解決の経験の蓄積が、自己有用感や実社会・実生活に貢献しようとする態度へとつながり、社会の形成者としてよりよい社会の実現に努めようとする（社会参画、社会貢献） 			

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成
学ぶことの意義や価値の理解

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

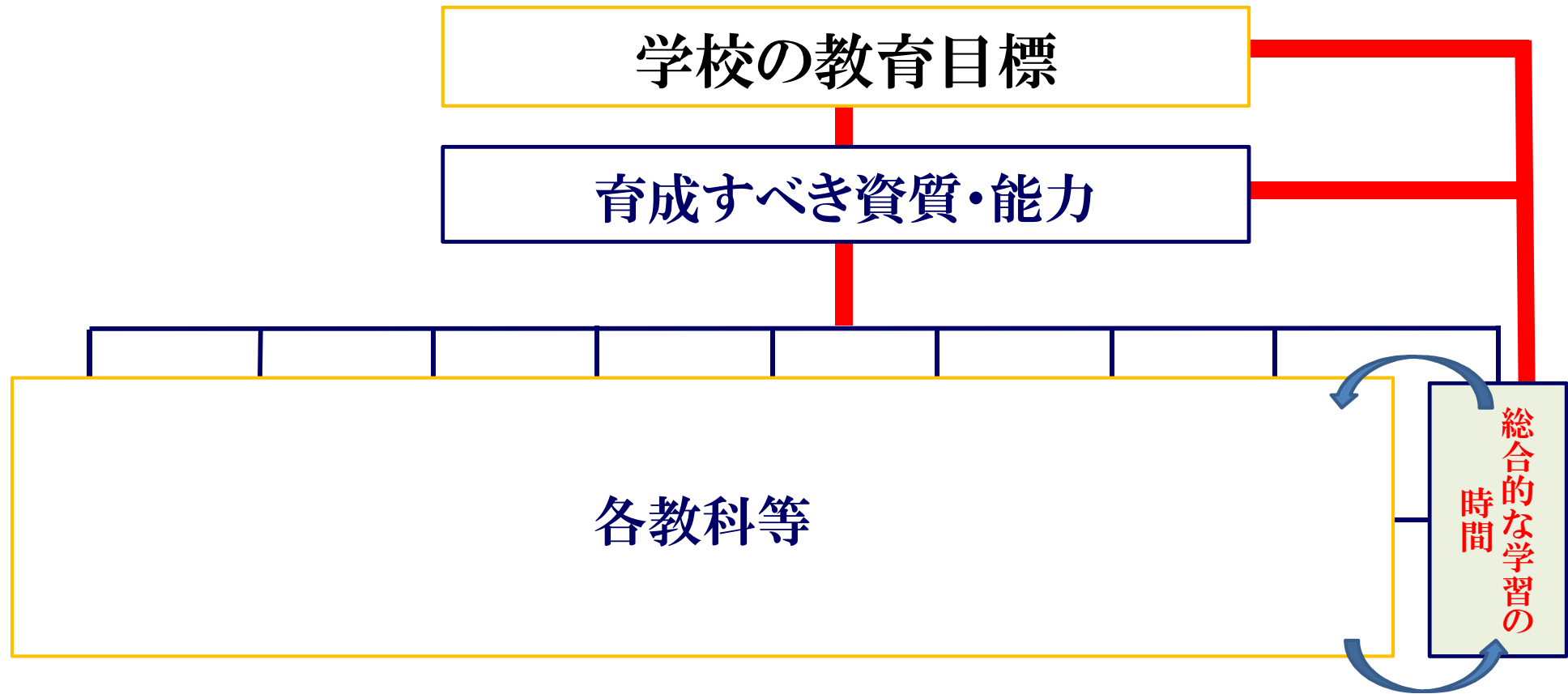
表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的・構造的)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

カリキュラム・マネジメントの実現



※ 総合的な学習の時間の目標は、各学校が育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度などを表現したものになることが求められるため、学校の教育目標と直接的につながる。

【カリキュラム・マネジメントの三つの側面】(教育課程企画特別部会論点整理より)

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。